紙相撲 再始動

紙相撲新聞
第153回本場所
初日～三日目号
編集・発行
日本紙相撲協会

若ノ嶋　安定の取り口で３連勝
新横綱春ノ翔は烏帽子岳に苦杯

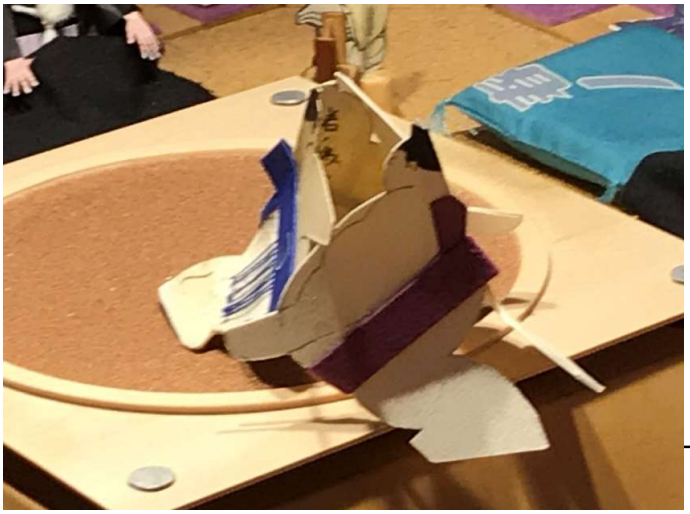
【第百五十三回本場所初日～三日目】

新型コロナに伴う緊急事態宣言が発令された関係で開催延期となっていた第１５３回本場所が３月２８日に開催された。実に昨年の１１月１４日以来、４ヶ月半振りの開催となる。

今場所の見どころは「新横綱春ノ翔がどのような相撲を見せるか」「先場所惜しくも優勝を逸した横綱若ノ嶋の横綱としての初優勝なるか」「大関佐賀ノ海の横綱獲りなるか」「関脇千代鈴が大関への足固めをするのか」「新生霧ヶ浜部屋初の三役、新小結若巨がどういった相撲を見せるのか」「新入幕の３人、春雷改め鉄甲、喜乃郷、若佑がどういった相撲を見せるか」などと盛り沢山。

優勝争いはと言うと、横綱若ノ嶋と横綱春ノ翔の２横綱を筆頭に、大関佐賀ノ海、関脇千代鈴の４人を中心に展開されるものと思われる。

紙力士は幸いにも新型コロナとは無縁だが、本場所の延期によって各力士とも稽古は十分とは言えず、また、新たに本場所土俵の貼替えを行なったため、これが各力士の相撲にどういった影響を及ぼすのかが分からず思わぬ波乱が起きる可能性もある。いずれにしても、各親方が首を長くして待った本場所が開催されたことを喜び、熱戦の相撲が展開されることを期待したい。



↑初日、東正横綱の若ノ嶋は気鋭の新小結若巨と初対戦。若巨がどこまで横綱を苦しめられるか期待されたが、若ノ嶋の怒涛の寄りの前に為すすべなく土俵を割った。

↓新横綱春ノ翔は艶やかな三つ揃えの化粧まわしで堂々の土俵入り。場内からは溜息にも似た歓声が上がった。

幕内は、初日から三日目までの３日間を行ない、横綱若ノ嶋、平幕の超刃、太刀鳳、照の王、鹿富士、伊達の富士、鬼ヶ嶽の７人が３連勝とした。

１４０回本場所以来、１３場所振りに東横綱に返り咲いた若ノ嶋。「久しぶりの東からの土俵でなんか違和感があって、しっくりこないなぁ」と東に座っての喜びを間接的に表現する若ノ嶋。先場所、横綱になって最高の１０勝をあげたものの同部屋の大関佐賀ノ海との優勝決定戦に敗れて惜しくも優勝を逸した若ノ嶋だが、今場所こそは横綱としての初優勝を誓って場所に臨む。

横綱土俵入りでは、自身の太刀が折れてしまい、それ以降は鞍ノ城の太刀を借りて土俵入りに臨んでいたが、今回、後援会から新たな太刀が贈られ、それを使っての土俵入りとなった。

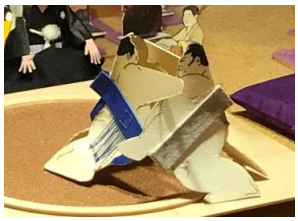
初日の対戦相手は新小結若巨と組まれた。「初日から嫌な相手が来たなぁ！」と若ノ嶋。若巨は成長著しい霧ヶ浜部屋の出世頭。育成会、幕下、十両をそれぞれ２場所ずつで通過して、今場所新小結に昇進した。ここまでスピード出世で番付を駆け上がってきたが、今場所は上位と総当たりとなる真価が問われる場所となる。霧ヶ浜部屋は若佑が新入幕を果たして、若柱を含め３人の幕内力士を抱える大部屋となった。幕内力士３人というのは、名門の友砂部屋、錦風部屋、鹿賀乃戸部屋より力士数が多いのだから大変なものだ。

若ノ嶋との一番は初日の結び。霧ヶ浜部屋としても結びで取るのは初めてのこと。緊張の中、軍配が返る。鋭い立合いをみせたのは若ノ嶋。若巨に何もさせずにそのまま正面土俵に寄り切った。

二日目は小結に返り咲いた英筏。なんとか横綱戦の連敗を止めたい英筏だったが、若ノ嶋は冷静に「まずはしっかり掴まえること」と立合いに両廻しを引くと一気に正面土俵に寄り進む。英筏は俵に足が掛かると左へ回り込みながらこれを残すが、休まず前へ出る若ノ嶋は最後には東土俵に寄り倒しで下した。

英　筏●（押し倒し）○若ノ嶋

三日目は磯昇。「過去は若ノ嶋の５戦全勝で安牌だね。」と鹿賀乃戸親方。「いや！土俵も変わったし、あまり参考にはならないよ！」と錦風親方。しかし、相撲は立合いから一気に出る若ノ嶋が一直線に黒房下に寄り切った。若ノ嶋は危なげない横綱相撲で３連勝として、優勝に向けて好発進した。



若ノ嶋○（寄り切り）●磯　昇

横綱に昇進した春ノ翔は中入り前に観衆の前で初めての土俵入りを披露した。型は雲竜型。真新しい化粧まわしと綱がよく似合う堂々たる土俵入り。先場所、連勝記録が「２２」でストップし優勝も逸したが、今度は横綱として心機一転、優勝と再びの連勝を目指すことになる。

初日は小結英筏。「横綱は横綱戦にはめっぽう弱くて、３横綱には０勝１２敗なんだよぉ。なんでこんなに弱いのかねぇ？」と英親方は若干自信なさげ。そうは言ってもと英筏の健闘を期待したが、相撲は春ノ翔が一方的に寄って白星発進した。

英　筏●（寄り切り）○春ノ翔